

PRESS RELEASE



やまがたの上質ないいもの。
その魅力をもっと伝えたい。
この新しいブランドマークを旗印に、
山形のいいものの魅力を伝えていきます。

令和 8 年 9 月 1 日

県政記者クラブ報道機関 各位

山形県産業賞委員会事務局
(山形県産業労働部産業創造振興課)

令和 8 年度山形県産業賞及び山形県科学技術賞受賞者の決定について

本日、山形県産業賞委員会を開催し、山形県産業賞及び山形県科学技術賞の受賞者を下記のとおり決定しましたのでお知らせします。

記

1 本年度の受賞者（功績概要は別添のとおり）

山形県産業賞（五十音順：敬称略）

（受賞者）

日東ベスト株式会社

原田 啓太郎（はらだ けいたろう）

矢野 秀弥（やの ひでや）

（市町村）

寒河江市

山形市

山形市

山形県科学技術賞（五十音順：敬称略）

（受賞者）

村山 秀樹（むらやま ひでき）

（市町村）

鶴岡市

2 贈呈式

日 時：令和 8 年 11 月 3 日（火・祝）午前 10 時 30 分から

場 所：山形県郷土館「文翔館」

その他：贈呈式は、齋藤茂吉文化賞と合同で行う。

3 賞の概要

目 的：本県産業及び科学技術の振興に資するため、県内において産業や科学技術の発展に貢献し、その功績顕著な個人又は団体を顕彰する。

沿 革：「山形県産業賞」は、浦本政三郎科学技術賞（昭和 37～42 年度）、山形県科学賞（昭和 44～46 年度）を拡大継承して昭和 47 年度に創設された。昨年度までの受賞者は、個人 114 名、団体 73 となっている。「山形県科学技術賞」は、平成 2 年度に産業賞の特別賞として創設され、昨年度までの受賞者は 24 名となっている。

問い合わせ先 産業創造振興課 地域産業振興担当 田宮

電話：023-630-3151

広報監 産業労働部次長 安藤

功 績 概 要 書

1 受賞者

住 所 寒河江市

団 体 名 日東ベスト株式会社

代表者名 代表取締役社長執行役員 嵯峨 秀夫

2 受賞理由

冷凍食品や業務用食品の製造を通じて山形県の食品産業を牽引し、地域農畜産物を活用した商品開発や品質向上に積極的に取り組んでいる。生産体制の高度化や海外展開を推進するとともに、環境負荷低減にも注力し、県内雇用の創出と地域経済の活性化に大きく貢献している。

3 具体的功績

- (1) 本県に本社を置き、県内有数の食品メーカーとして、地域経済と雇用を支えている。高い知識と技術力を有し、昭和23年に日本初の国産コンビーフの開発に成功。業務用冷凍食品の先駆者として食品業界の発展を牽引してきた。
- (2) その後も、学校給食等で児童全員が同じものを食べることができるアレルギー対応商品「フレンズミール」や、病院、介護事業所で噛む力、飲み込む力が低下した高齢者等をターゲットとした、おいしそうな見た目のままでやわらかく噛みやすい食感の軟菜食「ホスピタグルメ」等を開発・普及させ、全国において幅広い世代の食を支えている。
- (3) 令和7年山形県バイオクラスター形成促進事業を活用し、慶応義塾大学先端生命科学研究所（鶴岡市）と「培養肉生産用培地開発のための基礎的研究（食品由来の培地成分の探索）」の共同研究を実施するなど、高度学術機関との連携も進めている。
- (4) 日東ベスト教育振興基金においては、学生への奨学育英資金の貸与をはじめ、130団体を超える学校・スポーツ団体への教育用品等の助成を行っている。総合文化祭の開催や、寒河江まつりへの参加等、地域貢献活動にも注力し、地域活性化に資する取組が顕著である。
- (5) 従業員が安心して長く働き続けられるよう、働きやすい職場環境の整備に積極的に取り組んでいる。平成20年度に「内閣府少子化対策担当大臣表彰」を受賞、平成23年度には「くるみん認定」を初取得するなど、子育て支援に手厚い企業として評価されている。また、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する「健康経営」にも注力し、「健康経営優良法人2026（大規模法人部門）」に認定されている。

功 績 概 要 書

1 受賞者

住 所	山形市
氏 名	原田 啓太郎
年 齢	73 歳
現 職	株式会社ハッピージャパン 代表取締役会長兼社長 株式会社ハッピープロダクツ 代表取締役会長 ハッピー協和株式会社 代表取締役社長 幸福縫衣機股份有限公司（台湾） 董事長 HARACHU (THAILAND) CO., LTD. President

2 受賞理由

本県の製造業を代表するハッピーグループの代表者として、本県産業の発展に大きく貢献している。グローバルな視点を持ち、家庭用ミシンや刺しゅう機、半導体関連装置、自動車関連部品など多岐にわたる製品を山形で製造し全世界に販売している。

また、社外役員や経済団体、教育関係機関の要職を務め、地域経済と次世代人材教育の牽引役として手腕を発揮するとともに、社会貢献活動にも積極的に取り組むなどその貢献度は非常に高い。

3 具体的功績

- (1) 大正12年からの歴史を受け継ぎ、技術力と品質管理の体系化を推進しているほか、ISO9001、ISO14001などの国際認証を取得し、製品の信頼性向上を図っている。海外進出にも注力し、平成26年からタイに現地法人を設立し、平成29年には量産拠点を設置するなど、グローバルな展開を推進している。令和3年以降、OEM中心の体制から転換し、自社オリジナルブランドミシンを立ち上げて国際的な認知度の向上を積極的に図るとともに、根強い需要がある欧米市場への輸出拡大にも注力し、新たな市場開拓を進めている。
- (2) 産業技術短期大学校の教育振興会では、顧問として技術者育成や産学連携に関与。産業界と教育現場をつなぎ、県内人材の裾野拡大に貢献している。
- (3) 山形商工会議所の議員を務め、製造業の代表として地域経済の政策提言に参画している。
- (4) 山形県経営者協会の理事として経営者ネットワークの発展に寄与している。
- (5) 株式会社ヤマコーや両羽協和株式会社、山形放送株式会社、株式会社山形銀行の社外役員を歴任し、培われたグローバルな視点や感性を基に自社のみならず県内他社のガバナンスの強化や経営監視機能の向上に貢献している。

功 績 概 要 書

1 受賞者

住 所	山形市
氏 名	矢野 秀弥
年 齢	74 歳
現 職	株式会社山形丸魚 会長

2 受賞理由

㈱山形丸魚は創業 80 年超の県内屈指の卸売業者であり、矢野氏は、同社の会長として「安全・安心」な水産物や一般加工食品の提供を通じて地域の食を支えている。さらに、長年培ったノウハウを基に、商品提案・開発を顧客と共に進める共創型の取組みにも注力している。例年開催している「山形丸魚総合展示会」では、約 200 の企業・団体が出展し、水産品のほかに、防災用品、県産品や地元調理学校のブースなどを全国の食品バイヤーへ幅広く紹介している。

また、商工会議所活動などを通して地域経済の発展にも大きく貢献している。

3 具体的功績

- (1) ㈱山形丸魚の代表として、常に時代のニーズを的確に把握しながら、経営統合による県内最大級の水産物卸業者としての地位を確立するなど、新たな方向に進む先見性と、卓越した指導力により売上増を図りながら、新時代の卸売業を目指し社業の隆昌を実現した。現在は、同社の会長として、業界全体の発展や自社の信用力向上に寄与している。
- (2) 山形商工会議所においては、平成19年から副会頭、令和 2 年から現在に至るまでは会頭として、地域卸売業界をはじめ地域の産業が抱える課題の解決に向けた政策提言活動等に取り組んでいる。会員交流委員会では、異業種交流会を継続開催し、商談機会の創出に努めた。大沼閉店やコロナ禍では特別相談窓口を設けたほか、独自支援策の実現、情報発信の強化を図った。令和 7 年 6 月には山形大学の新学環と協定を山形市と共に締結し、DX人材の育成にも尽力している。また、「山形芸妓育成支援協議会」の設立時会長として、やまがた舞子、やまがた芸子の育成に尽力し、伝統芸能の保存・継承に大きな成果を上げている。加えて、「山形日華親善協会」の副会長として台湾との交流促進に貢献した。
- (3) 山形県商工会議所連合会会長としては、コロナ禍において県内経済回復のための支援拡充を要望し、10年間無利子無保証料融資の実現に結び付けた。また、価格転嫁の円滑化や人材確保、特殊詐欺被害防止に関する協定締結などを通じ、地域経済の発展と安全・安心な地域社会の実現に尽力してきた。

功 績 概 要 書

1 受賞者

住 所	鶴岡市
氏 名	村山 秀樹
年 齢	63 歳
現 職	国立大学法人山形大学 理事・副学長

2 受賞理由

山形県園芸試験場および山形大学農学部で、約 40 年に渡って果樹の成熟生理・ポストハーベスト科学を中心に、研究を続けてきた。特に山形県の主要果樹であるセイヨウナシ（ラ・フランス）やサクランボを対象に、成熟・追熟、エチレン生成、デンプン分解、貯蔵条件と品質保持などの基盤研究で多くの研究実績を残している。これらの成果が果実の高品質化や長期流通技術の確立に寄与し、地域農業の発展に大きく貢献するとともに、受賞者自身は、園芸学会・食品保蔵科学会での委員活動や地域連携プロジェクトを通じ、学術と産業の橋渡し役としても重要な役割を果たしてきた。

3 具体的功績

- （1）専門分野の知見をベースに、山形県内の果樹生産者・JA・試験場への技術指導・講演・助言を行うとともに、山形県「ラ・フランス」振興協議会アドバイザー、庄内産ワインプロジェクト会議委員、上山市園芸作物産地化研究会委員などを務め、県内の農業や食品産業の振興に貢献してきた。
- （2）山形大学農学部長として、山形大学アグリフードシステム先端研究センターや山形大学農山村リジェネレーション共創研究センターを設立するなど、組織として農学研究をリードしてきた。
- （3）山形大学理事・副学長に就任以降は、国際交流担当として学内での学術交流や国際共同研究を活性化するだけでなく、山形大学・山形県・新モンゴル学園の三者協力覚書締結では、県と新モンゴル学園との連携を強化し、モンゴルと山形の若者の人材循環を促進するために尽力している。